

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

前年度、人工呼吸器装着中の患者で MDRPU 発生があり、その事例検討から上がった改善策の定着に向けて実践に取り組んだ。改善策として、看護計画のタイムリーな修正や経過表の観察項目の修正、RST・WOCN などリソースナースの活用と情報共有を対策として挙げ、MDRPU 発生 0 を目指して日々看護に取り組んだ。人工呼吸器 (BIPAP・NHF) 装着患者は年間 (2020.4~2021.1) で 13 名、総計 64 日間の装着期間の看護を実践した。人工呼吸器装着に関連した MDRPU 発生はなく経過し、患者にとって安全・安心・安楽な看護の実践を病棟内で共有し提供することができた。

2) 病院経営に参画する

前期の集計・分析の結果から、薬剤廃棄の原因として、当日投与する薬剤のミキシング後の指示変更や中止によるものが最も多かった。そのため業務改善の視点からも指示受けからその処理までの業務の見直しを行った。改善前は、指示変更を確認した看護師が変更内容をプリントアウトし指定されている場所へ保管し、夜勤帯の看護師が返納処理を行っていた。変更指示の発生から、返納処理を行うまでに時間を要する状況であり、その間に返納する薬剤を誤って調剤したり、看護師が入れ替わり指示・薬剤処理が適切に行えていないために発生していると分析した。指示受けをしてすぐに対応できない場合や、薬剤を受領していない状況で返納処理ができていない場合は次勤務者に紙媒体を手渡し、指示変更と返納処理を依頼する取り決めを実施した。その改善策にて薬剤廃棄数は前年度の 2/3 に減少した。薬剤廃棄のしにくい業務への改善と、廃棄件数の減少に繋げることができた。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

前期の手指衛生が必要なタイミングについての監査から、実施が不十分なタイミングについて、ポスターの掲示と全体への周知を行い、手指擦過消毒剤の使用量は 1.5 回増加し、6.34 回となった。適切なタイミングでの手指衛生の実践となった。

4) 専門職として能力開発に努める

「新人看護師が直面する困難感と PNS における先輩看護師の支援方法」について、看護研究を行った。看護研究から得た結果を病棟内で発表し、研究結果の共有を行った。今後、研究成果を用いて病棟内でどのような調整をするか具体化し、PNS マインドの醸成や新人看護師の教育体制の整備に向けて取り組んでいく。

5) 活気ある職場、元気のある職場づくりを推進する

今年度、PNS マインドの醸成や補完業務の充実のため、業務分担の計画段階で「補完者」という役割を 1 名決め、取り組んだ。結果として合計 51 回の「補完者」を決め、補完業務の調整が行えたことで、補完者の役割をスタッフに理解してもらいきっかけとなった。PNS マインドの醸成やより質の高い PNS の実施に向けて、今後も取り組んでいく。

2. 病床運営状況

表1 令和2年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)				
48	耳鼻科・眼科・ 総合診療 内科等混合	109.4	132.5	39.7	10.0	82.7	91.8

重症加算病床		有料個室		死亡者数 (人)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
3	99.1	5	101.0	30

3. 看護体制

表2 令和2年度 看護体制 (令和2年4月1日現在)

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
34	PNS [®]	4:3

4. 看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表3 令和2年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度Ⅱ

基準を満たす患者の 割合(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		31.4	31.3	25.5	33.1	31.7	32.9	35.3	33.5	35.4	40.4	30.6	33.8

2) 部署データ

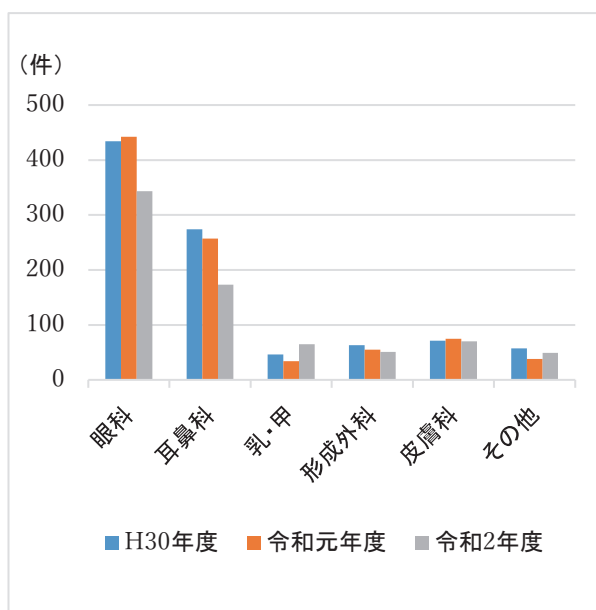


図1 令和2年度 科別手術件数

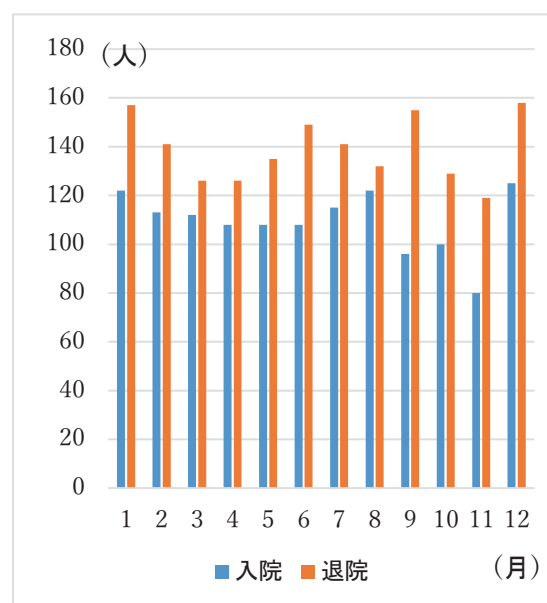


図2 令和2年度 月別入退院数

5. 看護研究発表・研究会発表

- 1) 確実に再現性のある治療環境を整えるためのアセスメントシートの改定—アセスメントに有用な情報の精選—

坂本 彩

日本放射線看護学会第9回学術集会

2020年9月27日

- 2) 確実に再現性のある治療環境を整えるためのアセスメントシートの改定—効果的活用方法について—

坂本 彩

日本放射線看護学会第9回学術集会

2020年9月27日